

## English Garden 第34話

"Grant that I may not so much seek To be loved as to love."

Saint Francis of Assisi

### 「愛されるより愛することを望むことができますように」 アッシジの聖フランシスコ

小鳥と対話している絵などで有名なアッシジの聖フランシスコ(1181/82～1228)は、世界中の人びとに愛され、親しまれている聖人です。冒頭の詩は「平和の祈り」とされる彼の祈りの一部で、現在も平和思想の原点として尊重されています。

去る9月に世を去ったマザー・テレサも聖フランシスコを深く敬愛しており、彼女の創設した「神の愛の宣教教会」および「マザー・テレサ協力者国際協会」では、この「平和の祈り」を会員達の団結の絆としています。

また、1986年には世界の主要な12の宗教の代表者がアッシジに集まり、「平和の祈り」を基にして世界の平和を話し合い、祈りを捧げるという画期的な会議が開かれました。

聖フランシスコは裕福な織物証人の子として生まれ、成人するまで家業を助けていましたが、幼いときから貧しい人びとには愛情深く接していました。ある日、仕事の忙しさにまぎれて貧しい人の求めに応じなかったときは、すぐに自分の非に気づいて後を追ひ、たくさんの施しをしたということです。

ローマに巡礼に行きサン・ピエトロ大聖堂を訪れると、そこには貧しい人が大勢いたのに衝撃を受け、直ちに服を脱いで彼らの服と交換しました。こうして貧困の苦しみと喜びを味わってアッシジに帰ると父から勘当されていますが、神の召命を受けたフランシスコは甘んじてこの処理を受け入れました。そこで「サン・ダミアノ聖堂を修復するように」との神の命に従って、らい病患者の世話に検診する傍ら、施しを請いながら信心深い町の人びとの協力で修理を終え、次に聖ペトロ教会の修理も完成しました。

さらに、ポルティウンクラの聖堂を修理するために住み込んでいたとき、ミサの中で朗読された聖句が心に留まりました。それは、キリストが弟子達を宣教に遣わす際に説かれた福音書の一節でした。「帯の中に金貨も銀貨も銅貨も入れて行ってはならない。旅には袋も、二枚の下着も、履き物も、杖も持って行ってはならない」(マタイによる福音書10章9,10節)このとき聖フランシスコはその意味を理解し、無上の喜びに満たされてこれこそ神の啓示と受け取り、直ちに杖を脇に置いて靴を脱ぎ、財布と金を投げ捨てて衣一枚だけにして、革のベルトを荒なわに代えました。彼はいま耳にしたことを実践し、使徒たちに示された行き方に従う決心をしたのです。

「平和の祈り」は彼が自ら書き記したものではありませんが、彼は生涯、身をもってこの祈りを実践しています。次に全文をご紹介します。

主よ 私を平和の道具とさせてください。

憎しみのあるところに愛を

私をもたらすことができますようにしてください。

また、罪のあるところに許しを

争いのあるところに許しを

誤りのあるところに真理を

疑いのあるところに信仰を

絶望のあるところに光を

悲しみのあるところに喜びを

もたらすことができますように。

ああ、主よ

慰められるよりも慰めることを

理解されるよりも理解することを

愛されるよりも愛することを

私が望むことができますように。

なぜなら、私たちは 与えることによって与えられ

許すことによって許され

死によって永遠の生命に生きるのです。

